

高校生の学習成果発表会特集 第1弾 ～高校生の情熱満載！～

都留高校 「フィリピンでの国際ボランティア報告会」

- 日時 12月22日(月) 16:00～17:00
- 場所 県防災新館1階 生涯学習推進センター
- 発表者 宮下結名(2年) 幡野結愛(1年) 小山にこ(1年)
小林玲乙菜(1年) 佐藤倭(1年) 加藤優空(1年)
- 参加者 約30名
- 内容

・NPO法人「JIYU」の紹介

今回の活動を強力にサポートしてくださったのは、発展途上国への支援を続けるNPO法人「JIYU(ジユウ)」です。教育を通じて未来を切り開く活動を展開しています。

・現地の現状 — 光と闇が共存するセブ島

観光地として知られるセブ島ですが、実際には墓地で暮らす家庭や、ゴミ山を遊び場にする子供たちがいます。こうした現実を変えるためには、教育の力が不可欠です。

・これまでの歩み(2年前～現在)

- ①クラウドファンディングで資金を獲得
- ②中学校での出前授業で活動周知と物資提供の呼びかけ
- ③地元企業へのプレゼンで資金援助を依頼
- ④高校生ボランティア全国大会で優秀賞を受賞

・今年度の活動テーマ: 「仲間を増やす」

小学生から大学生、さらに県外の仲間も加わり、活動の輪が広がりました。残念ながら当日は天候不良による休校でランドセルを直接手渡すことはできませんでした。その代わりに、現地法人「DAREDEMO HERO」の協力で、11月の大型台風で避難所生活を送る方々や、墓地で暮らす家庭、ゴミ山で遊ぶ子供たちとの交流を通じて、**支援の大切さと現地のリアルを学ぶ貴重な機会**となりました。

○生徒の声

「これまではボランティア活動をしたり、人前で話したりするのが苦手でしたが、今回のプロジェクトで実際に行動したことで、一回り成長できたかな?と思います。これからも“行動すること、体験すること”で得られる学びを大切にしていきたいです。」「緊張しましたが、この問題を多くの方々に知ってもらいたい一心で頑張りました。自分の思いが伝えられて良かったです。」

彼らは今回の活動を通じて、国際協力の現場を知り、行動することの大切さを改めて実感しました。今後も地域と世界をつなぐ活動を継続し、より多くの仲間とともに学びを深めていくことを期待します。未来を背負うたくましい若者たちがキラキラ輝いた素晴らしい報告会でした。



(左から) 宮下さん、幡野さん、小山さん



(左から) 小林さん、佐藤さん、加藤さん



JIYUの担当者も遠方より参加



会場の様子



司会のMomokaさん

上野原高校「総合学科発表会」～Dreams come true 夢の実現～

○日 時 12月20日(土) 9:00～12:00

○場 所 上野原高校 体育館ほか

○内 容

全体会 [体育館ステージ発表]

- ・3年次生3名(山口さん、朝倉さん、小泉さん)による総合学科高校としての上野原高校の特色の紹介
- ・1年次生2名(山田さん、佐藤さん)によるドリームスピーチ『支援学校の教員になりたい』『覚悟を持って決めた私の本当の夢』
- ・2年次生2名(和田さん、佐々木さん)による課題研究発表『異文化理解不足』『34%のエンジニアが100%の質を目指すまで』
- ・3年次生3組6名(①川口さん、和智さん ②喜多さん、中川さん ③雨宮さん、佐藤さん)による課題研究発表『残存歯数を増やすためには』『世界の子供向けアニメの比較と共通点』『若者の幸せとは』

2年次生ポスターセッション [体育館アリーナ]

- ・20グループが、インターンシップをとおして見つけた社会課題について研究した成果をポスターにまとめ発表。簡潔に研究成果を伝えており、非常に印象的でした。
- ・また、上高生はもちろん、市長を始めとする来賓の方々や保護者、そして地元の中学生からの質問に丁寧に回答し、活発な意見交換が行われるなど、活気に溢れていました。

3年次生分科会課題研究発表 [各教室]

- ・18グループが、それぞれ興味・関心を寄せるテーマに基づいて行った研究成果をプレゼンテーションで発表。「上野原市の労働人口問題」といった地域課題から、「認知症患者のQOL向上のためにできること」といった社会課題、「色からわかる性格診断」といった学問的な探究など、幅広い分野での研究発表が行われました。

○感想

【1年次発表者】「来賓の方々や全校生徒の前で発表するのはとても緊張しましたが、自分の思いを伝えることができ、すごく良い経験になりました。これからも夢の実現に向けて頑張ります。」

【中学生】「インターンシップをとおして見つけた社会課題について研究を深めていて高校生はすごいなと思いました。」
「今回の発表会をとおして、今までよりもっと上野原高等学校や『ドリカムシステム』に興味がありました。」

【保護者】「各学年の発表も分かりやすく、司会の生徒も発表者のフォローもしていて、とても良かったです。」
「各自の希望や特性に合わせた指導をしていると改めて感じました。」

1年次「夢の探索」、2年次「夢確立のための探究活動」、3年次「夢の実現に向けた探究活動」と、『夢を持つことの大切さ』を3年間の学校生活で身につけることが、上野原高校の教育目標の一つです。自分の夢を起点に、職場体験などをとおして社会課題に触れ、その解決に向けた研究を重ねることで、主体的な学びを深め、将来は地域、日本、世界を担う人材へと成長していくことが期待されます。



全体会での発表の様子



聴衆を前に堂々とした発表



ポスターセッションの様子



聴講者とのやりとりも活発!



分科会での3年次生の発表



質疑応答も活発に行われました



展示スペースでの成果物の展示



上野原市長を始め多くの来賓が出席

吉田高校「富士山学 全体&学年発表会」～商工会議所青年部とのコラボ～

全体発表会(2年生)

○日 時 2月4日(水) 13:55～15:45(オンライン配信)

○内 容 昨年度の探究活動を踏まえて、「子供」「教育」「文化」「福祉」「スポーツ」「運動」「旅行」「観光」「食」「表現」「芸術」「科学」「国際」「防災」「復興」「インターネット」「情報」「ビジネス」の分野で計53チームが、探究テーマを設定し、1年間にわたり活動しました。分野別発表会で選出された代表8班が全体会で発表しました。

- ・「ジーバーEATS～地元（地場）の食材を食卓へ～」
- ・「吉田の織物を地元高校生に認知してもらうためには」
- ・「食べ物のおいしさの秘密」
- ・「自転車で富士吉田市の観光を盛り上げるには」
- ・「性格の成り立ち」
- ・「未来へハタオリを繋げる」
- ・「遊んで・備えろ、吉田っ子！」
- ・「リギングを効果的にするには」



発表の様子



発表を聞く審査員の皆様



オンラインでも熱量は伝わります！



商工会議所の青年部の方も審査

富士吉田市ふるさと魅力推進課、富士吉田商工会議所青年部、吉田高校運営協議会委員、公益財団法人粟井英朗環境財団、権太校長を審査員に迎え、厳正な審査が行われました。地域や社会の方々に支えられながら、新しい視点で地域や社会の未来を主体的に想像し、その魅力を生かした協働的な解決策を創造し、よりよい社会の実現に向け行動することができました。

学年発表会

○日 時 1月21日（水）13:50 ～ 15:40

○場 所 1年生各教室

○内 容

・1年生の「富士山学」における探究活動は、4～7月に富士吉田市の産業や文化についてインプットを行い、9月にテーマ設定、10月から本格的な探究活動を開始し、1～2月にポスター発表を行うという流れとなっています。

・富士吉田市商工会議所青年部の皆様には、インプット期における講演をはじめ、探究活動中のフィールドワークのサポート、さらには発表会において今後の探究に向けた助言をいただくなど、年間をとおして吉高生の探究活動を手厚く支えていただいています。

・「地元の高校生は地域の宝」という青年部の皆様の熱い想いが、この連携の源泉となっています。

・また、当日は2年生による学年発表会も行われ、青年部のサポートによる探究活動の進化を実感する機会ともなりました。

高校生の探究活動は、地域課題の解決をテーマとすることが多くあります。富士吉田市をリードする商工会議所青年部の皆様のご協力により、インターネットだけでは得られないリアルな情報を得ることができ、フィールドワークを円滑に進めることが可能となっています。より実践的で学びの深い探究活動を

実現するために、学校と地元商工会議所とのコラボレーションは必要不可欠なピースであることを、改めて実感しました。



1年生の発表の様子



発表を聴く青年部の方



的確な助言がありがたいです



当日参加の富士吉田青年会議所の皆様

都留興譲館高校 「教育実践公開発表会」～地域とつながる学びの力～

○日 時 2月6日（金）13:00 ～ 15:20

○場 所 都留市「都の杜うぐいすホール 大ホール」

○内 容

・石川県輪島市の被災地でのボランティア活動に参加した有志のチームの発表でスタート。現地での炊き出し、輪島高校との交流、地域のゴミ拾いに参加した様子が伝えられました。

・普通科2年生の沖縄修学旅行での探究活動は、事前学習で得た疑問や課題を、現地調査を通して検証する取組が発表されました。

・普通科3年生の課題研究は、学校運営協議会の手厚いサポートと、地域の専門家の指導助言を生かし、より深い研究成果が発表されました。

・英語理数科は、地元小学校での外国語活動の出前授業の様子を紹介。試行錯誤を重ねてブラッシュアップされていく授業、そして回数を重ねるごとに成長していく生徒の姿がとても印象的でした。



堂々と発表する姿が印象的でした！



地元の中학생など多くの方が来場

・工業各科は、これまでの授業で身につけた専門の知識や技術を最大限に発揮し、製作に取り組んだ過程を発表しました。

機械工学科 一枚の鋼板から部品を切り出し、加工し、組み合せて「**ゲッターロボ**」(頭部と胸部)を製作しました。完成品は3mになる予定で、後輩たちに引き継がれます。

電子工学科 オープンキャンパスやつる産業祭で来場者が楽しめるゲームとして、ハードウェア・ソフトウェア・3Dプリンタを駆使して、「**じゃんけんマシン**」を製作しました。

制御工学科 野球人口増加プロジェクトとして、誰でも簡単に野球を楽しめる「**置きT台**」を製作しました。地元保育園へ寄贈し、園児たちが野球の楽しさを体験しました。

環境工学科 扱いが難しい銀粘土の特性を学んだ上で**シルバーリング**を手作り。また竹ひごで**トラス橋模型**を製作し、建築構造への理解を深めました。



ゲッターロボ!



トラス橋の模型(左)
シルバーリング



じゃんけんマシンを実演!



保育園での寄贈の様子

○感想

【中学生】「地域やそこに住む人々のために行動することで貴重な学びを得ることの大切さを感じました。私たちも高校生になったら、このような活動ができるよう、しっかり学習に励んでいきたいと思いました。」

来賓の方の講評では、「**社会とつながり、社会で学んでいる**」「**ネットでは得られない生の情報を得ようとしている**」「**協働的に活動し、「共創」している**」と、都留興譲館高校の探究活動の素晴らしさが語られました。来年度以降もさらなる“向上(こうじょう)”を目指して、取り組むことを大いに期待します。

富士北稜高校 「生徒発表会」～専門性が拓く未来～

○日時 2月20日(金) 13:30 ~ 15:20

○内容 各系列・年次の代表生徒が学習成果を発表しました。専門性を生かした取組や、地域課題への高校生らしい視点が光りました。

電気情報系列 Vtuberによる動画発信、HTMLを使ったポーカーゲーム制作、Unityでのゲーム制作、学校CM動画など、**情報技術を活用**した多彩な作品を紹介しました。

建築デザイン系列 教室のカギ管理の改善をテーマに、3Dプリンターなどを活用してカギ看板を制作。課題設定から実行、評価まで**PBLの手法**で主体的に取り組みました。※PBL…Project-Based Learning/課題解決型学習

福祉健康系列 県家庭クラブ最優秀賞の防災活動を発表。小学生や高齢者に防災の知識を伝え、地域の**防災意識向上に貢献**した実践を紹介しました。

機械テクノロジー系列 ロボコン参加、純銀スプーン製作、機械加工検定への挑戦など、**ものづくりの技術向上**に向けた取組を報告しました。

総合ビジネス系列 ふるさと納税への関心から、返礼品を紹介するカードを制作。**市の魅力を伝える工夫**を探った取組を紹介しました。

教養系列 フリースローの分析、情報の信頼性、日本文学研究など、**身近な興味を深めた多様な探究**成果を発表しました。

2年次 防災バッグの設置提案やオーバーツーリズム対策など、**地元課題の解決**をめざす高校生らしい斬新なアイデアが発表されました。

1年次 市の無償化施策の効果や、ひじきと富士吉田市を結ぶ富士山信仰の関係など、**地域に目を向けた学び**が特徴的でした。

今回の発表会では、生徒の皆さんが実社会と結びつけて探究に取り組んできた姿が印象的でした。3年間で培った知識や技能を生かし、試行錯誤を重ねながら高いクオリティの成果物を完成させた努力は素晴らしいものです。また、チームで協力し課題に向き合う中で、協働する力やものづくりの楽しさを実感できたことも大きな成長でした。どの発表からも、生徒の探究心と努力が力強く伝わってくる、心に残る発表会となりました。



Vtuberでの発信も



生徒に好評のカギ看板



防災すごろくで意識向上



自作の返礼品紹介カード

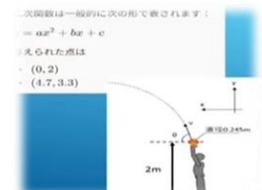


プロ顔負けのクオリティ

防災バッグにはどのくらいの量の水を最低限備えておいたほうがよい?

- 1 一日分の飲み物 (一人当たり約1.5リットル)
- 2 三日分の飲み物 (一人当たり約3リットル)
- 3 一週間分の飲み物 (一人当たり約7リットル)

クイズを使い伝える工夫も



これで成功率アップ



ひじきを深掘り

大月キリストの教会幼稚園 ～子供主体の表現活動発表会～

○日 時 12月12日(金) 10:20 ～ 11:20

○参加者 ゆり組(年長児)・さくら組(年中児) 計17名

○ねらい

- ①友達と関わる中で、共通の目的の実現に向けて、考えたり工夫したり協力したりし、充実感をもってやり遂げていく。
- ②豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

○主要内容

・この発表会の特長は、映画で例えるなら**原作・脚本・衣装・美術・監督・出演者など、すべて園児たちが担い**、創り上げた表現活動であることです。

・時間をかけて話し合い、他者の意見を尊重し、試行錯誤を繰り返しながら一つの作品を完成させる過程で、園児たちは協同性や自信を身につけました。

発表作品『宇宙の大冒険』あらすじ 妖精と恐竜は仲良く遊んでいたが、UFOにさらわれた妖精を助けるため恐竜が宇宙へ。ブラックホールの迷路を抜け、再会し、月から地球の美しさを感じながら帰還する物語です。

・本番当日は、準備や練習の成果を十分に発揮し、素晴らしい世界を作り出しました。観ていた保護者も感動し、演技終了後の達成感に満ちた子供たちの表情がすべてを物語っていました。

○感想

【園児】「みんなといっしょに、ちからをあわせてげきをつくって、すごかったのしかった。」

【保護者】「自分たちで考えたストーリーなのが素晴らしいです。あんな世界観を作れるなんて天才です！！一人ひとりの顔がキラキラしていて心から楽しんでいる様子が伝わってきました。キリスト幼稚園に通わせてよかったなと改めて感じました。」



背景の絵もみんなで描きました



演技の練習。試行錯誤の連続。



妖精役の園児の優雅な演技



恐竜になりきっています！



ロケットのポーズも考えました！



全員での踊りもバッチリです！



多くの保護者が参観しました

富士ふれあいセンター『支援者交流会』～まずは知ることから～

○日 時 12月16日(火) 18:00 ～ 20:30

○場 所 上野原市総合福祉センターふじみ 2階会議室

○主 催 山梨県立富士ふれあいセンター

○ねらい

障害児(者)の支援者(施設、行政、教育等)の「孤立化防止、息抜き、ストレス解消」の機会とし、交流を深め、生き生きと前向きに生活できるようサポートすることを目的とした交流会です。

○講 師 成嶋 徹氏(JR 東日本、パラアスリート)

○内 容

第1部 難病「オリエール病」を患う成嶋氏による講演とワークショップが行われました。

・「オリエール病」は多数の腫瘍や骨の変形を引き起こし、手足の長さや左右差が出たり、骨折を引き起こしたりする病気で、治療法はまだ確立されていません。

・成嶋氏は「治療法の確立を目指す」という壮大な**ビジョン**(なりた



会場の様子



講師を務めた成嶋 徹氏



専用の下着について解説



2名の手話通訳者が聾啞者をサポート



ペアでのワークショップ



人生曲線の発表「今が最高です！」

い自分)を掲げ、バリュー(自身の強み)を生かし、ミッション(やりたい行動)を実践している生活について語りました。

・講演では「思い」という言葉が何度も強調され、ビジョン実現には熱意が大切であると力説されました。

・ペアで行うワークショップも非常に盛り上がり、初対面同士で「人生曲線」を共有することで、参加者同士の交流が深まりました。

第2部 和やかに打ち解けた雰囲気の中で、障害者支援の在り方について、家族・福祉・教育の支援者が率直な意見を交換し、課題を共有しました。

・成嶋氏の友人であり、足に障害を抱えながらパラリンピック出場を目指す馬場俊明さんも参加され、貴重なお話を伺うことができました。

富士ふれあいセンターの小林さんからは「今回が初めての開催で参加者は少なかったものの、新たな“つながり”を作れたことが最大の収穫です！」とのコメントがありました。障害のある方への支援をより良いものにするためには、支援者同士の幅広い“つながり”が不可欠です。今後、この交流会がより多くの方に知られ、支援者の輪が広がることで、障害のある方が安心して暮らせる地域・社会づくりにつながっていくことが期待されます。



質疑応答も活発に行われました 東京から駆けつけた馬場さん(左)

忍野幼稚園 『茶道教室』 ～心をこめて「いただきます」～

○日 時 1月23日(金) 10:00 ～ 11:00

○場 所 忍野村生涯学習センター 和室

○講 師 裏千家茶道教授 天野 宗正(そうせい)先生

○参加者 忍野幼稚園 年長児 21名

○内 容

・天野先生による茶道教室は約15年前から開催されており、小さい頃から茶道に親しんでもらいたいという思いのもと、指導が続けられています。

・挨拶、お菓子やお茶の出し方・いただき方についての指導が行われました。

・園児は2グループに分かれ、お茶やお菓子を出す役といただく役を交互に体験し、茶道の作法を学びました。

・「おいしいお茶ができるようにゆっくりまわしてみよう」など、優しく丁寧に指導される先生の姿が印象的でした。

・初めての茶道体験に戸惑いながらも、園児たちは終始笑顔を見せ、日本の伝統文化を楽しんでいる様子でした。

・1週間後には、保護者にお茶やお菓子を振る舞う機会が設けられ、誇らしげな園児たちの姿が心に残りました。

○感想

【園児】「おうちのひとに、おちゃをのんでもらえて、うれしかったです。」

「こぼさないようにきんちょうしたけど、たのしかったです。」

【保護者】「茶道体験をこの年齢でなかなか出来ることがないので、感動しました。」

「兄の時は、コロナ禍で体験できなかったもので、自分の子供にお茶を点てもらい、飲むことが出来て、うれしかったです。」

和の総合芸術とも呼ばれる茶道の体験と実践とおして、日本の伝統文化を大切に思う心を育むとともに、丁寧な所作の中に相手を思う気持ちを込める姿が見られました。子供たちの成長を感じる、心に残る意義深い幼稚園行事となりました。



講師の天野 宗正先生

「『の』を書くように混ぜようね」



お茶を点てる園児。上手ですね！

園児の所作を優しく見守る天野先生



「おちゃをどうぞ！」

「ちょっとにが〜い」正直ですね



保護者を招いてのお茶会の様子。保護者のみなさん感動の嵐！

山中湖村長寿会 ～園児との交流&健康増進のゲーム大会！～

○取材日時 12月15日(月) 14:00～15:30
 ○場所 山中保育所
 ○参加者 山中湖村のお年寄り40名
 ○ねらい eスポーツを活用し、高齢者の引きこもり防止、介護予防・フレイル予防等、**健康増進**を図るとともに、**地域住民の親睦を深める**ことを目的としています。

○内容
 ・バンダイナムコ社の「太鼓の達人」を使った『LEGEND CUP(レジェンド・カップ)』が開催されました。
 ・15日(月)の午前には平野保育所で平野・長池地区、午後には山中保育所で山中・旭日丘地区の予選が行われ、各地区の上位4名が、17日(水)に『紅富士の湯』で行われた決勝戦に進出しました。
 ・予選前には**園児との交流会**も実施され、園児とお年寄りが肩を並べて太鼓を叩き、得点を競いました。お年寄りも園児も真剣な表情で取り組み、終了後は**笑顔があふれていました**。
 ・決勝戦は一般のお客様が見守る中、**16名による白熱したトーナメント戦**が繰り広げられ、見事、旭日丘地区代表の**羽田良子さんが昨年に続いての連覇**を達成しました！競技終了後、お互いの健闘をたたえ合う姿が見られ、とても印象的でした。

○感想
 【園児】「おじいさんやおばあさんたちと一緒にゲームができて楽しかったです！」
 【参加者】「やっぱり大会になると緊張するけど、モチベーションが上がるので楽しい。」「負けて残念。来年は練習して地区優勝を目指したい。」「初めて参加したけど、楽しかった。もっとやってみたくなる。」

山中湖村社会福祉協議会 運営担当者の言葉

「2回目の開催も多くの方のご協力を頂きながら、無事に終わることができました。この大会を通して、長寿会の活動への参加率の向上、仲間づくり世代間交流、孤独感の減少などにつなげていきたいです。参加者の皆さんが笑顔でプレイする姿が何より嬉しく、今後も開催を続けていきたいと思っております！」



園児との交流の様子

一心不乱に太鼓を叩きます！



「ガンバレ！ガンバレ！」

紅富士の湯での決勝戦の様子



平野保育所の園児と参加者のみなさん



山中保育所の園児と参加者のみなさん



左から 3位 羽田仁さん、会長 羽田幸徳さん、二連覇 羽田良子さん、2位 石川万貴子さん

上野原小学校×上野原こども園×上野原羽佐間幼稚園 『園児と小学生の交流会』

○日時 1月26日(月) 10:35～11:20
 ○場所 上野原小学校
 ○参加者
 上野原小学校 1年生 51名
 上野原こども園 年長児 36名
 上野原羽佐間幼稚園 年長児 14名

○内容
 ・小学校での生活につまずきを感じる、いわゆる“小1ギャップ”の解消を目的に、国や県が推進する幼保小の円滑な接続に向けた交流事業の一環として実施されました。



交流会の様子

鍵盤ハーモニカの演奏



「これは？」「つちです！」

手を挙げてクイズに答える園児たち

- ・2グループに分かれ、小学1年生が1年間で出来るようになったことを園児のみなさんに発表しました。
- ・「楽器演奏」「算数」「国語（漢字）」「給食紹介」「学校紹介」「音読」「運動」など、それぞれが得意なことや見てもらいたいことを工夫して発表しました。
- ・算数や国語、学校紹介ではクイズを取り入れるなどの工夫が見られ、正解してガッツポーズをする園児もいるなど、会場は大いに盛り上がりました。
- ・交流後は、1年生が園児の手を引いて校舎内を案内し、校長室や職員室を紹介する姿がとても誇らしげでした。



「10-3は?」「7です!」

「刺身が給食に出ると思う人?」



プレゼントを首にかけてあげました!



手を引いて校舎を案内。優しい!

○感想

【園児】「きらきらぼしの えんそうが すごかったです!」

【1年生】「ようちえん生が クイズに こたえてくれて とてもうれしかったです!」

【1年生】「ようちえんの おともだちと いっしょに 学校を あるけて たのしかったです!」

わずか2週間の準備期間で園児たちを楽しませようと頑張った1年生と、初めての小学校での活動にも関わらず先生や小学生の話をよく聞いて積極的に活動した園児たち。双方にとって大きな成長が感じられ、幼小の円滑な接続につながる有意義な交流会となりました。

西桂中学校×西桂保育所 『地域連携で広がる保育実習の学び』

○日時 2月6日(金) 9:50 ~ 11:30

○対象 西桂中学校3年生30名/西桂保育所102名

○内容

・コロナ禍による中断を経て昨年度に復活した、長年続く連携実習です。

・中学生は希望に応じて、0歳児～年長児の各クラスに分かれて活動しました。

・外部講師による「リトミック教室」では、園児と一緒に音に反応しながら体を動かしました。

今回の最大の見どころ!

・中学生全員が“完全オリジナル絵本”を制作し、園児へ読み聞かせを実施。

・ストーリー、挿絵、メッセージまですべて手づくりで、質の高さは“プロ顔負け”。

・園児たちは、中学生の読み聞かせに息をのむように集中し、食い入るようにページを見つめていました。

○その他の活動

・お散歩、砂遊び、鬼ごっこなど園庭でも一緒に活動しました。

・砂遊びで汚れた服の着替えや手洗いの声かけなど、実践的な保育の場面にも積極的に参加し、学びを深めました。

○中学生の感想

「子供と目線を合わせて話すなど、学んだことを生かしました。ただ、教科書だけではわからないことも多く、実習に来て本当に良かったです。園児たちが絵本や遊びを楽しんでくれてとても嬉しかったです。」

同じ町で育った中学生と園児が学び合う姿には、この地域ならではの温かな循環と、長年続く連携の力が感じられました。かつて保育所で過ごした子供たちが、今度は支える側となるつながりが、未来をひらく確かな力として受け継がれていくことを願います。



園児と一緒にリトミック教室



すぐになついてくれました!



読み聞かせの様子



中学生が作ったオリジナル絵本



前のめりに聴き入る園児



「ゆっくりでいいからね!」



砂場遊びの様子。園児たちの独創性にびっくり!

銘楽堂 presents クリスマスコンサート

○日 時：12月14日（日）14:00～15:00

○場 所：大月市民会館 3階講堂

○参加者：北都留地区の住民を中心に73名

○出演者：『コンコルディア』

池谷亜希子氏、笠井身江子氏、堀内志寿子氏、水越あかね氏、
高島千香氏、藤本理恵氏、古館智子氏、前田みか氏、望月恭子氏

○主要内容：

・クリスマスメドレーの美しい歌声で華やかに開演しました。

・「音楽と絵本」をテーマに、絵本の読み聞かせと場面に合わせた楽曲で、聴衆を大いに楽しませました。

・演奏曲は『ハイホー』（ピアノカ）、『星に願いを』（ハンドベル）、『くるみ割り人形より 行進曲』（ピアノ）など、クリスマスムードたっぷりのプログラムでした。

・大人気グループ Mrs. Green Apple の『ライラック』では、会場全員がボディーパーカッションで参加し、一体感のある素晴らしいリズムを刻みました。

・アンコールは『クリスマスがやってくる』を見事なハーモニーで歌い上げ、魔法のような演奏会に幕を下ろしました。

○参加者の感想：

【子供】「絵本を音楽と一緒に見ることでより楽しめました。『ライラック』では参加できてとても楽しかったです」「楽器演奏と一緒に踊る時間があって、とても楽しかったです」

【大人】「素敵な演奏と歌声に思わず聴き入ってしまいました。子供が知っている歌ばかりで、一緒にノリノリで楽しめました！あっという間に時間が過ぎ、サンタさんの物語と演奏が重なって、まるで風景が目に浮かぶような素敵なコンサートでした。」

今回のクリスマスコンサートをもって、今年度の銘楽堂さんのサポートによる芸術文化推進事業は締めくくられました。音楽を通じて、北都留地域の子供たちには夢と笑顔を、大人の皆さんには心安らぐひとときを届けてくださいました。こうした取組が、地域に温かなつながりと豊かな文化を育んでくれたことに心から感謝します。来年度以降も、この素敵な活動が続き、北都留のまちにさらに多くの感動と笑顔が広がることを楽しみにしています。



（後列左より）望月氏、水越氏、高島氏、前田氏
（前列左より）藤本氏、笠井氏、古館氏、堀内氏、池谷氏



コーラスとピアノカの演奏の様子



ハンドベルの美しい音色で聴衆を魅了しました！



ボディーパーカッションで大盛り上がり！隣の人と「タッチ！」

上野原中学校×明治安田 『金融教育』～教室の外にあった！もうひとつの学び～

○日 時 2月5日（木）9:40～11:25

○対 象 上野原中学校 2年生(2クラス)

○講 師 明治安田上野原営業所長 程田光太郎 氏、ほか2名

○内 容

・昨年度から実施されている、明治安田による金融教育。



元氣一杯の程田先生



授業の様子

・中学2年生「家庭科」の授業の一環として実施しました。学習単元は「消費生活のしくみ」を扱いました。

・前半は、「お金の機能と役割」をテーマに、社会における物資やサービスのやりとりについて学習。「いろいろな支払い方法」では、現金払い、クレジットカード、二次元コード決済の利点や注意点について解説がありました。電車やバスの支払い方法をどれにするか考えさせるなど、**学びを普段の生活に生かすためのワーク**も行われました。

・後半は、将来を見据えた**計画的な金銭管理**についての講義。収入と支出のバランスを考えながらお金を使うことの大切さについて、お話をいただきました。

○感想

【中学校教員】「外部の専門家の方が、その強みを生かして行う授業は、生徒にとってとても刺激的だと思います。学校の授業で地域の方々の力を生かせることは、子どもたちの学びを深めることにつながるので、今後も継続したいです。」

【明治安田担当者】「今日の授業をきっかけに、大人になってお金を持ったときに、家計簿をつけるなど、正しい金銭感覚を身に付けてもらえると思います。」

教室の外には、子どもたちの「なるほど！」を引き出すプロがいます。地域企業の方の実体験や具体例は、学校の先生の説明とは違う角度から生徒の心に届き、学びを一段深めてくれます。今後、地域とともに育つ学びが、多くの学校で実現していくといいなと感じる授業でした。



生徒とのやりとりも活発！



ワークに取り組む生徒



個別サポートも充実！



オリジナル教材も秀逸！

明治安田

都留二中×健康科学大学「中大連携で深まる進路学習」

○日時 1月23日（金）13:50～15:20

○場所 健康科学大学 桂川キャンパス（都留市）

○参加者 都留第二中学校1年生 110名

○目的

健康科学大学 連携問合せ↑

大学での講義や施設見学をととして、大学での学習や生活を知るとともに、職業を見据えた進路選択について考える機会とする。

○内容

講義

看護学科長・坂本文子先生より、「看護職とは？」をテーマに講義をしていただきました。専門職に就くための学習の仕方や、必要な技能の身につけ方について、具体例を交えて分かりやすくお話しいただきました。

大学紹介

6名の大学生から、大学での学習内容や学生生活について、学生の視点からお話を伺いました。インタビュー形式で行われ、生徒にとって非常に分かりやすく、親しみやすい内容でした。

施設見学・体験

生徒は8グループに分かれ、学内の各施設を見学しました。「図書室」では、看護学部ならではの専門書の多さに驚く様子が見られました。「母性・小児看護実習室」では、赤ちゃん人形の抱っこ体験や、聴診器を使って心臓の音を聴く体験をしました。「基礎・成人看護実習室」では、血圧測定の方法を学んだり、注射の練習用器具に触れたりしました。そのほか、「老年・在宅・地域看護実習室」での車いす体験や、「学生ホール」「ラウンジ」での学生同士の交流の様子についても説明がありました。看護学部ならではの講義や施設に触れることで、大学での学習や生活について、より具体的に理解を深めることができました。



看護職について語る坂本先生



大学生が Q&A 形式で学校紹介



すごい熱量で話を聴いていました！



専門書に興味津々の中学生



「座り心地がいいな～」



「心拍聞こえる？」「聞こえます！」



血圧測定体験の様子



「血管分かる？」「分かります！」

○生徒の感想

「実際に大学に来て施設を見学したり、大学生や先生方のお話を聞いたりして、将来の進路を具体的にイメージすることができました。すごく良い刺激をいただいたので、まずは勉強を頑張ります！」

中学生が将来の進路や生き方を考えることはなかなか難しいのですが、大学との連携をとって実際の学びや人と出会うことで、「学ぶこと」と「生き方」を結び付けて考えることが可能になります。今後も中学校と大学が連携し、子供たちの成長を支える取組が広がっていくことが望まれます。

明日の風 アスリート実技講習会 ～多種目の運動に挑戦し、仲間とともに成長～

○日 時 2月14日(土) 9:00 ～ 12:00

○場 所 大月市民総合体育館

○参加者 北都留地区の小学生23名

○今回の実施種目

立ち幅跳び 五段跳び 反復横跳び 30mダッシュ
上体起こし **メディシンボール投げ(今回の目玉!)**

○活動の様子

メディシンボール投げに挑戦!

- ・大谷翔平選手も活用する人気のトレーニング。
- ・初めて扱う重いボールにドキドキしつつ、全身の力を使って「1cmでも遠くへ!」と真剣な表情でトライ。

恒例のチームリレー也大盛り上がり

- ・メディシンボールを“バトン”として使用。
- ・ハンデをつける、頭上でパス、股下をくぐらせる、とアレンジを加えて5回実施。
- ・即席チームでも、相談し合いながら勝利を目指す姿が印象的でした。

○参加者の声

【小学生】「普段あまり運動しないけど、この講習会ではみんなと楽しく体を動かせてすごく楽しいです。コーチの先生のアドバイスもわかりやすく、とてもためになっています！」

【保護者】「いろいろな種目を体験することで、子ども自身が得意・不得意を知る良い機会になっています。参加後に“新しい友達ができた!”と嬉しそうに話してくれることもあり、この講習会のありがたさをいつも感じています。」

汗を流し、笑い合い、励まし合いながら、子どもたちは自分の可能性を広げていきました。支えてくれる富士・東部地域の先生方や仲間がいるからこそ生まれる“挑戦する勇氣”。こうした地域の力が、子どもたちの未来を確かに育てています。



体を使ったじゃんけんでウォームアップ

「飛ばしてけ〜!」



2kgの“バトン”です!

息を合わせてボールを運びます



「転がっているよ〜」

勝利に向けての作戦会議



本気だから出る渾身のガッツポーズ!

山梨ことぶき勸学院 活動実践発表会 ～探究心は永遠に～

○日 時 1月30日(金) 9:20 ～ 11:50

○場 所 山梨県立文学館 講堂

○参加者 北都留教室 発表:2年生9名/参加:1年生7名
南都留教室 発表:2年生3名/参加:1・2年生11名



会場の様子

多くの方が来場!

○内 容

この発表会は、勸学院での学習や諸活動をまとめ、発表をとおして、相互理解を深めるとともに、勸学院での活動の質的向上や学生の卒業後の活動継続を促すために毎年行われています。

北都留教室 「文明のあかり」ともした八ッ沢発電所

・北都留教室では、**八ッ沢水力発電所とその関連施設**について探究したことを発表しました。発電所が建設された背景や、首都圏への長距離送電をとおして日本の経済発展に貢献してきた歴史についての説明がありました。

・14kmにわたる現役の導水路や隧道などの構築物が評価され、**国の重要文化財**に登録された理由についても紹介されました。

・フィールドワークでは、実際に導水施設や発電の様子を確認しました。発表では、大野貯水池の完成により、日本で初めて調整池方式を採用した発電所が誕生した経緯について、現地での学習の様子が分かるスライドを用いて、分かりやすく伝えました。

・地元の貴重な文化的施設の保護の重要性やこれからの時代における電気の使い方や環境問題について、改めて深く考えるきっかけとなったようです。

南都留教室 「神が宿る山 富士山 一富士山信仰の歴史をたどる」

・南都留教室では、受講生が3グループに分かれ、富士山信仰と深く関わる

①「富士講と御師」②「流鏝馬祭り」③「宝永の大噴火」

について学習した成果を発表しました。

・①では、江戸時代から現代に至る富士講や御師の家の歴史と、その文化的価値について紹介しました。②では、南都留地域に伝わる特徴が異なる2つの祭り「小室浅間神社の流鏝馬」と「御室浅間神社の流鏝馬」について紹介しました。③では、宝永の大噴火の詳細に加え、現代に同規模の噴火が起きた場合に想定される被害や、防災対策について分かりやすく説明がありました。

高齢になっても粘り強く資料を調べ、現地に足を運んで学びを深める勸学院生の姿は、子供たちが探究学習の進め方そのものを学ぶ貴重な手本となります。学校と連携し、出前授業などをとおして交流が進むことで、勸学院生にとっては学びを生かす機会となり、先生や子供たちにとっても新たな学びを得る、世代を超えた学び合いが広がっていくことが大いに期待されます。



浅川先生(手前)と原稿を読む学生



小幡先生(左)と発表する代表の学生



発電所でのフィールドワークの様子



上文司家住宅訪問の様子

帝京科学大学 × 上野原中学校 『中大連携で挑む“創作ダンス”』

○日 時 2月12日(木) 9:40 ~ 11:30

○対 象 上野原中学校 1年生(2クラス)

○講 師 帝京科学大学 教育人間科学部 こども学科

准教授 望月崇博 氏

プロが入ると、授業が変わる

- ・創作ダンスの専門家・望月崇博先生を外部講師として招聘。
- ・先生は同校のCSアドバイザーでもあり、中学校と大学が自然につながる連携が実現。
- ・全8時間のうち6時間を望月先生が担当。金丸教諭(体育)と協働し、**専門性と学校教育の融合授業**を実施。

形容詞からダンスを“創る”

- ・テーマは「嬉しい」「強い」などの形容詞。単語から連想するイメージをダンスにしました。



多方面で活躍する望月先生



金丸先生もしっかりサポート！



協力して作り上げました！



望月先生の熱意溢れる指導

- ・ 5人前後の班でオリジナルダンスを創作。
- ・ 金丸教諭のワークシートを活用し、話し合いを重ね振付を決定。
- ・ 短期間でも**個性ある作品が次々と完成**。
- ・ 最終発表は教頭先生や OS 委員が審査。
- ・ 上位 3 班は、**大学ゼミ公演に特別出演**する貴重な機会も獲得。



生徒の意見を尊重する望月先生



練習の成果を存分に発揮しました

生徒の“変容”

当初は恥ずかしさが見られた生徒たち。しかし、プロの熱量と専門的な指導に触れ、**自ら動く姿勢が芽生えました**。リハーサルでは「ここをもっとよく見せるには？」と、望月先生に積極的にアドバイスを求める姿も多く見られました。**受け身の学びから“主体的な作品づくり”への大きな転換**が確認できました。

感想

【中学生】「望月先生の『日常の一つ一つの動きもダンスなんだよ』という専門家ならではの話が心に残りました。みんなで協力して一つの作品をつくらせて本当に楽しかったです！」

【金丸先生】「自分の専門外の単元で、大学の先生にご指導いただけたことは生徒にとって大きな経験となりました。大学との連携で授業がより魅力的になると強く感じました。本当にありがたかったです。」

今回の授業は、**単発ではなく単元づくりから発表の場まで中学校と大学が協働する継続的な取組として実施されました**。望月先生は、言葉や感情をどのように体で表現するかという**“表現の本質”**を大切に、その想いは生徒にも教員にも深く届きました。中学校と大学が力を合わせることで、**子供たちが“本物に触れながら成長する学び”が地域に根つきつつあります**。



お二人の連携が見事です！



先生と有志生徒による即興ダンス！

とりさわ認定こども園『国際バカロレア』～世界基準の学びがここに！～

○日 時 2月13日(金) 10:00 ~ 11:00

○場 所 とりさわ認定こども園

概要

・ 国際バカロレア (IB=International Baccalaureate) は、世界約 160 の国と地域で実施されている国際的な教育プログラムです。

・ とりさわ認定こども園では、「**探究心や思いやりを育て、世界で活躍できる力を身につけてほしい**」という教育理念のもと、2024 年から IB 教育を導入しています。日々の保育に IB の考え方を取り入れ、子どもたちが**自ら学び、考え、行動する力**を育む環境が整っています。

教育的目的

園では、以下の 5 つの目的を掲げ、IB の理念を日々の保育に取り入れています。

1. 自ら考え、問いを持ち、行動できる子どもを育てる。
2. 「なんで?」「どうして?」「やってみよう!」という気持ちから学びを広げる探究的な姿勢を育てる。
3. 国際的な視野を養い、多様性を尊重する心を育てる。
4. 「育てたい 10 の人物像」を園児と共有し、保育に生かす。
5. 知識を得るだけでなく、それを行動につなげることを大切にする。

具体的な活動

英語環境

英語指導専門の外国人教員が常時勤務しており、授業だけでなく日常生活の中でも自然に英語に触れられる環境が整っています。英語習得を支える大きな要素となっています。



外国人の先生との日々の交流



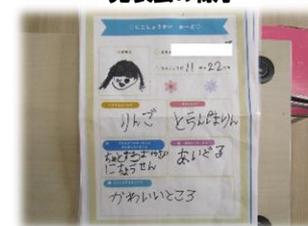
掲示物でも英語習得をサポート



発表会の様子



発表を終えて満面の笑み！



プロフィール作成も頑張りました



保護者の方も多数参観



給食にも国際理解の工夫！



サマースクールで留学生と交流

サマースクール

提携するマレーシアの学校と交換留学を実施し、留学生の受け入れや現地訪問を通して、互いに学び合いながら生活を共にします。園児たちは、文化や言語の異なる仲間との交流を通じ、多様性を理解し、他者を尊重する姿勢を育てています。

○自己紹介プログラム（本日の取組）

- ・コミュニケーションの基礎となる「自分を伝える力」を育てるため、友だちや先生、保護者の前で自己紹介を行いました。聞き手にとっては「相手を知る力」を育てる機会にもなっています。
- ・発表では、名前・誕生日・好きな食べ物・好きな遊び・将来の夢に加え、「できるようになったこと」や「自分の好きなところ」も紹介しました。自己肯定感を育てたいという先生方の思いが伝わる、心温まる時間となりました。

とりさわ認定こども園は、富士・東部地域で唯一の国際バカロレア認定園として、子どもたちの未来を見据えた先進的な教育に取り組んでいます。先生方の熱意と丁寧な実践が、園児一人ひとりの学びを力強く支えています。

大石小学校『キャリア教育出前授業』～今、学ぶことの大切さ～

○日 時 2月18日（水）13:40～14:25

○場 所 大石小学校 多目的ホール

○講 師 山梨県専門インフルエンサー Momoka さん

○対 象 4～6年生 計25名

○ねらい

- ・情報発信には責任が伴うことや、1つの動画・投稿を作るために必要な「準備」や「工夫」について知る。
- ・自分の個性や好きなことが、誰かの役に立ったり仕事につながったりする可能性に気づく。
- ・相手の立場に立って物事を伝える技術や、共感を得るための工夫を学ぶ。

○内 容

- ・Momokaさんが、インフルエンサーの仕事や動画づくりについて、山梨県や出身地・都留市に関するクイズを交えて紹介してくれました。
- ・子どもたちはクイズで大いに盛り上がり、会場は終始明るい雰囲気でした。
- ・動画制作の様子や、情報発信で大切にしている点の話になると、児童は真剣な表情で聞き入り、熱心にメモを取る姿が見られました。
- ・使用している動画編集アプリや、動画配信を始めたきっかけなどについて、積極的に質問する児童がたくさんいました。

・「インフルエンサーは、人に楽しさや知識を届け、行動や気持ちに影響を与える仕事。だからこそ信頼が大切。」というMomokaさんの言葉には、多くの子どもたちが深く感銘を受けていました。

○児童の感想

「Momokaさんの『うそをつかずに正しく伝えることが大切』という話を聞いて、SNSや情報を発信するときには意識したいと思った。」

「私は動画編集に興味があるので、どのような手順で動画を作るのかとても参考になった。今日のお話にあった“届ける相手のことを考えて言葉を選ぶこと”をこれから意識していきたい。」

SNSでの関わり方や、相手を尊重したコミュニケーションの大切さなど、子どもたちが日常で直面しやすいテーマを、山梨で活躍するMomokaさんがご自身の経験から具体的に伝えてくださいました。学校だけでは触れにくいリアルな学びを地域が支えてくれた、まさに連携の力が光る授業となりました。



やまなし大使も務める Momoka さん



話を真剣に聴く児童たち



クイズに答える児童たち



メモを取る姿勢が素晴らしい



「サインください！」



写真撮影に笑顔で応じる Momoka さん



Momoka さんを囲んで記念撮影

都留市“CS(コミュニティ・スクール)学習会”～住民参加型の学びづくりが動き出す！～

○日 時 1月13日(火) 15:00～16:30

○場 所 教育プラザ都留 3F大会議室

○主催者 都留市教育委員会

○参加者 各学校運営協議会委員(地域住民、保護者、校長等)、教職員、大学関係者など総勢約50名

○講 師 文部科学省CSマイスター 井上尚子 氏

都留市広報でもCS特集！

こちらをご覧ください →



講師の井上尚子先生

井上尚子先生による“なるほど！”が連発の講義

- ・子供たちにとって“学校 × 地域”のつながりがなぜ大切なのか、具体例を交えながら紹介。
- ・会議を「ただの話し合い」で終わらせないためのキーワード、“熟議”。
- ・学校と地域を結び、双方が動きやすくなる環境を整える“コーディネーター”の重要性を提示。
→ 会場の多くが「もっと話を聞きたい！」と感じる、引き込まれる講義でした。

市内の多様な参加者が“熟議”に挑戦！

- ・参加者は、学校関係者、学校運営協議会委員、地域住民、保護者など、まさに多様な顔ぶれ。
- ・初対面のメンバー同士が5～6人のグループになり、短い時間ながらも本気の意見交換を実施。
- ・「地域の力をもっと生かしたい」「学校の課題を一緒に考えたい」など、前向きな声が多数。
→ 参加者全員が「これぞCSの原動力！」と実感する、濃密な時間となりました。



多くの方が参加

グループの意見を全体発表で共有

- ・各グループが話し合いで出た意見を代表者が発表。
- ・様々な視点に触れることで、「こういう考え方もあるんだ！」と新たな気づきが広がる場に。
- ・会場全体が「市ぐるみで子供を育てよう」という一体感に包まれました。



これぞ“熟議” 熱い！

CSの持続発展、そして教育をよくするための“ポイント”

- ・学校と地域の間にある“ハードル”をどう下げるか → 関わりやすい仕組みづくりが必須！
- ・魅力ある地域人材(＝プロ)の活用&子供が“本物に出会う”ことで学びが一気に加速
→ 本物の知識や経験に触れる機会は、子供の学びを大きく動かす力に！



様々な意見を全員で共有

今回の研修では、持続発展に向けた協働のポイントを学ぶだけでなく、地域や立場の垣根を越えた熟識によってCSへの理解が深まり、横のつながりも生まれるなど、全員の士気が高まる有意義な時間となりました。ここで見たのは、子どもたちの未来を変える力は、学校と地域が心をつなげたとき生まれるということでした。都留市で進めるCSの取組は、ここからさらに力強く前進していきます。

かえる舎10周年イベント～心が揺さぶられた。教育の未来がここに～

○日 時 2月23日(月・祝) 13:00～16:00

○場 所 富士吉田市民会館大ホール(ふじさんホール)

○主催者 NPO法人『かえる舎』、かえる組

かえる舎って？

かえる舎は、富士吉田を拠点に子ども・若者の地域での学びを応援するNPO法人です。合言葉は、「自分を“かえる”、地域を“かえる”、未来を“かえる”」。学校・行政・地域の方々と力を合わせ、子供たちが実社会の中で学び、挑戦する場をつくっています。

第1部：高校生の発表(若者チャレンジプロジェクト)

市内高校の代表生徒が、地域課題に向き合った探究の成果を発表しました。

- ・吉田高校…小学生向けに「パズルで学ぶオリジナル・ハザードマップ」を制作。(左より)かえる舎代表 斎藤さん、渡辺さん、赤松さん
遊びの要素を取り入れ、溶岩流の危険性を分かりやすく伝える工夫がありました。
- ・富士北稜高校…「防災バッグを町中に置こう！」をテーマに、噴火時に自宅にいない可能性を踏まえた備えを提案。外国人対応や心理面への配慮も考えました。
- ・ひばりが丘高校…富士吉田の魅力を伝えるオリジナルかるたを制作。インタビューや資料調査、授業での実践まで取り組みました。



活動の様子を伝える展示

10年の活動を振り返る写真展



市内4高校の代表生徒による探究発表

・富士学苑高校…市の課題をテーマに探究。「おてもと富士」を題材に、課題分析から現地調査、まとめまでのプロセスを丁寧に報告。

・かえる組（高校生のボランティア・学習グループ）からは、この1年の挑戦が紹介されました。

- ①市の名産品を紹介する「ふじよした図鑑」制作
 - ②「ハタオリマチフェスティバル」への出展
 - ③市の名物をモチーフにした「よしたのおぼけ」のお面づくりワークショップ
 - ④地域の職業体験「ふじさんおしごとパーク」での企画立案・市役所へのプレゼン・地域との調整・当日の運営など
- 多岐にわたる挑戦が紹介されました。高校生たちが**地域に出て、多くの人と関わりながら成長**していく姿がとても印象的でした。

第2部：かえる舎 10周年の歩み

- ・10年の活動を振り返る動画を上映。創設当時の物語が、関係者の言葉で綴られました。
- ・会場には涙や笑顔があふれ、温かな雰囲気になりました。
- ・代表・斎藤和真さんからは、学校・行政・地域・保護者・高校生への感謝と、「**これからの10年、20年も、みんなが“かえる”場所であり続けたい**」という思いが語られました。
- ・フィナーレは、10周年記念の校歌「**かえるの歌**」をOB・OGも一緒に大合唱。感動の締めくくりとなりました。

ある卒業生が語った言葉が心に強く残りました。

「かえる組の活動を通して、挑戦することを恐れなくなった」

これから社会はますます先行きが見えなくなり、

“正解がない課題に挑む力” “他者と協働して道を切り開く力” が求められていきます。

今回の発表を通して、かえる組の高校生たちには、**その力が確実に芽生えている**と強く感じました。

地域が子どもを受け入れ、大人が支え、学校が背中を押す—

そんな「**地域で育てる教育**」こそ、**これから求められる姿**ではないでしょうか。この2年間、地域教育に関わる中で、今回のイベントは改めて「**地域で育つ学びの大きな可能性**」と「**未来への希望**」を感じさせるものでした。

かえる舎HPはこちら↑

～おわりに～

本年度も『風と光と』をご覧いただき、誠にありがとうございました。取材にご協力くださった学校や地域の皆さまのお力添えにより、今年も子供たちの輝く笑顔や、教育に真剣に向き合う多くの取組を紹介することができました。心より感謝申し上げます。

取材を通して、富士・東部地域には、子供たちのために力を寄せ合う温かな連携事業が数多く息づいていることを改めて知ることができました。この地域には、まだ紹介しきれっていない素敵な実践が数多くあると感じています。今後も、皆さまからの情報提供をいただければ幸いです。

少子化が進む中、「子供は宝」という言葉の重みは増すばかりです。いま求められているのは、子供たちを真ん中に、学校・家庭・地域の大人が風通しよくつながり合える関係だと思えます。そのためには、まず“お互いを知る”ことから始まります。『風と光と』が、皆さまをつなぐきっかけになりたい——そんな願いを込めて紙面をつくってまいりました。

これからも地域の教育をともに支え、子供たちの未来にそっと光を添えられる存在であり続けたいと思います。来年度も『風と光と』をどうぞよろしく願いいたします。

知ることが“風”を生み、つながりが“光”を照らす。『風と光と』は、そのはじまりに——



祝辞を述べる堀内市長



笑顔が素敵な「かえる組」



「1年間ありがとうございました！」



たくさんの方が「かえる舎」の10周年を祝福しました



♪かえるのうたが～ ではない、新しい“かえるの歌”をみんなで熱唱！

